

会議名称：令和3年度9月期古賀市社会教育委員の会議

日 時：令和3年9月14日（火） 18時30分～19時30分

場 所：オンライン会議

主な議題：第7回古賀市生涯学習笑顔のつどいの実施方法について

傍聴者数：なし

出席者：井浦議長、角森副議長、國友委員、村山委員、秋山委員、橋爪委員、丸井委員、
早川委員

（以上委員8名）

横田教育部長、樋口生涯学習課長、村上参事補佐、小嶋、渡邊

欠席者：光永委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

井浦議長：

皆さん、お揃いでしょうか？では、ただいまから9月期の会議を開催いたします。今回は、初の試みでリモートでの会議となります。今日はつどいのテーマ、登壇者等を決定できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、報告を一点させていただきたいと思います。8月31日に同じくリモートで行われた糟屋地区社会教育連絡協議会代表社会がありました。内容に関しては、後ほど事務局から改めて報告していただきますが、11月9日に予定されています福岡県社会教育委員研修会ですが、ここでの発表を糟屋地区代表として古賀市が行うこととなっていました。この研修会自体は実施せず、報告書のみ作成することとなりました。このため、実践発表も紙面での発表となります。内容は生涯学習笑顔の集いの実施経緯と、昨年度取り組んだ個人提言についてです。次回の会議で、皆さんに内容確認をしていただけるように、現在事務局と原稿を作成中ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

初めてのリモート開催で、臨機応変な対応を求められるかもしれませんが、積極的に発言して参加してください。それでは、協議事項に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局：

はい。

（事務局より、会議の進め方の説明及び資料の確認。）

井浦議長：

はい。それでは協議に移ります。本日は、別紙1の★マークがついた5点について決定をしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。会議については、20時ぐらいをめど

にしたいと思いますのでご協力をお願いします。

まず、メインテーマ・サブテーマについてです。アンケートを受けまして、「発見発掘！古賀のステキ活動～コロナ禍での活動どうしたらできる？～」と提案をしていただいています。皆さんからのご意見をお聞かせいただければと思います。

國友委員：挙手

井浦議長：

國友委員をお願いします。

國友委員：

メイン・サブどちらのテーマについても、別紙 3 のアンケート結果を受けての提案になっているので、皆さんの意見の反映と言うことで、これでよいかと思えます。以上です。

井浦議長：

ありがとうございます。その他の方はいかがでしょうか？ほかに意見がないようですので、次に進めさせていただいてよろしいでしょうか？

では、実施方法についてです。形式としましては、パネルディスカッションと決まっていますが、進行方法について別紙 2 のように提案をしていただいています。パネルディスカッションの進行方法とタイムスケジュールについて、また、パネルディスカッションの時間配分については、パネリストが 3 名の場合と 4 名の場合を提示していただいています。

まずは、進行方法についてご意見があればお聞かせください。

井浦議長：

秋山委員いかがでしょうか？

秋山委員：

はい。タイムスケジュールとしてはパネリスト 3 名のほうが良いかなと感じました。4 名の場合、各パネリストの令和 2 年度 3 年度の活動状況・周囲の反応の部分といった発表の時間が 2 分というのは、少し短すぎるのではないかなと思いましたので、3 名に絞って時間配分を行ったほうが良いのではないかなと思いました。以上です。

井浦議長：

はい。ありがとうございました。國友委員、手が挙がっていたようですが？

國友委員：

進行方法についてです。冒頭の導入提起・最後の総括については、外部の方をお願いしようという話があったと思うのですが、そうではなく、進行役が行うということによろしいのでしょうか？

井浦議長：

導入提起については、まだどうするか決めかねているところです。事務局から話をさせていただく、または、外部の方から話していただく、あるいは古賀市の関係者のどなたかにお話ししていただくという手もあるかと思います。現状をお話をしていただいて、パネリストの発表や討議・交流へと繋がっていけばと思っています。

國友委員：

現時点で、それらの役目を誰かに依頼をしているということではないということですね？

井浦議長：

パネルディスカッションの進行としては、私共の委員の中から選考できればと思っています。

國友委員：

承知しました。

井浦議長：

そのほかの委員の方、ご意見があればお願いします。早川委員いかがでしょうか？

早川委員：

フロアの方との交流がうまくいくかなという不安はある。パネリストの方と進行役の方とで進められるところまではイメージが湧くのですが、それに対してフロアの方が質問をされた時に難しいなという気がしました。以上です。

井浦議長：

はい。ありがとうございます。フロアとの交流ですね。

村山委員：挙手

井浦議長：

はい。村山委員お願いします。

村山委員：

パネルディスカッションというものを時々見せていただいたことはあるが、よく理解できていないまま資料を見させていただきました。皆さんの意見や考えを聞いているうちに、少し私も考えが変わってきたことがあります。

パネルディスカッションのお題3である今後に向けては4分の配分がなされており、お題1の令和2・3年度の取り組みについては3分と、こちらのほうが短く配分されている。今後に向けて話したいことや意欲もお持ちかもしれませんが、お話しいただく内容としては令和2・3年度の状況のほうが多いのではないかと思います。状況や周囲の反応をお話しいただく時間を増やして、今後に向けては2分ほどでよいのではないかと思います。

井浦議長：

ありがとうございます。時間配分についてのご意見をいただきました。そのほかございましたらお願いします。

先ほど、秋山委員から3名のパネリストという提案がございました。前回の会議で、角森委員からフロアの関係者を2名、登壇者を3名というような提案もあっていました。その辺も含めると時間配分や登壇者の数が制限できるのかなと思います。

登壇者案として出されている5名ですが、この数にも関係してくるのですが、前回早川委員からも、例えば子どもたちを出演させるときに感染の心配があるのご意見をいただいておりますので、その辺の調整もしていくと人数には3名から4名の登壇も可能なのかなと思っております。角森委員いかがでしょうか？

角森副議長：

やはり時間が短いかなということを皆さん心配されていると思う。参加対象者の中に、市民活動団体・社会教育関係団体・市民全般と書いてある。先ほど議長が言われたように登壇者は3名にして、フロアの発言者として、関係団体の方が自分たちの活動をお話しいただくなど意見交換をし、それを周りの参加者が聴くというのはいかがでしょうか？

フロアからも、このような活動をしていましたというようなお話をいただければ、早川委員がご心配されていた20分という交流の時間も、無理なくできるのかなと思いました。

井浦議長：

はい。ありがとうございました。ほかの委員の方、ご意見ございませんか？

では、進行方法についてはこの流れで通し、パネリストについては時間の調整が出てくるわけですが、できるだけフロアとの交流に時間を確保しながら、登壇者の発言の時間も確保

するとなると、3名程度が良いのかなというところですが。3名を軸にということで考えてよろしいでしょうか？

委員一同：はい

井浦議長：

ありがとうございます。では、登壇者ですけれども、市内校区コミュニティから松本氏、市内中学校の生徒会代表者、朝弁・朝勉から坂崎氏、つながりひろば、花見小30周年記念事業の5名の案が出ていますが、この中から3名を登壇者、残り2名をフロアからの参加者ということになるかと思えます。ご意見をお願いします。

國友委員：挙手

井浦議長：

國友委員をお願いします。

國友委員：

坂崎氏について補足です。朝弁・朝勉をスタートしたことでかなり有名ですが、今年・来年あたりで、また違う活動を企てておられて、今からやろうとしている活動としての話を坂崎氏からは聞くことができるのかなとは思っています。

井浦議長：

はい。少し音声途切れていた部分がありますが、坂崎氏からは内容を少しプラスしてお話いただくことができるので良いのではないかと、ということでよろしいでしょうか？

國友委員：

はい。

井浦議長：

その他の委員の方、いかがですか？

早川委員：挙手

井浦議長：

早川委員をお願いします。

早川委員：

生徒会について、少し的が外れるのかなという気がしています。本校の生徒会の取り組みとしては、地域活性化ということをねらい、千鳥駅でのあいさつ運動をしていたりしますが、PTCA などと一緒に活動ということではないので社会教育というところではそぐわないかなという気がしています。どの学校もコロナ禍で外との交流を断っている状況で、うちとしても一方通行のコミュニケーションですがあいさつ運動をしていることぐらいで、この場で生徒会の活動の発表はどうかと思います。以上です。

井浦議長：

生徒会は難しいかなというところでしょうか？

角森委員：挙手

井浦議長：

はい。角森委員どうぞ。

角森副議長：

この2年間で何も行事がなかった。特に、中学・高校は3年間で卒業してしまうわけですから、何も知らないまま、地域との交流もそうでしょうが、前はこんなこともやっていたんだということを知らない世代が、次の生徒会の活動をするようになる。

生徒会がこの場に参加する、しないということを考えないままですが、コロナ禍での活動しか知らない人たちが中心となってこれから活動していくことになるということ。3年間の在籍の中で、2年間もこの状況がある。前はこんなことをやっていたんだけどね、というように、活動をつなぐ機会が学校にはあるのでしょうか？

活動団体だけをつなぐのではなく、コロナ前と後の活動をつなぐ場にも今年度に於いては、なれるのではないかなと考える中で、一番スパンの短い中高生というのは知らないままていくのかなという思いがあります。

生徒が参加できるのかということはあるけれど、そういったことを、地域での活動に参加されている方なども一緒に考えられたら、今回の笑顔のつどいをやる意義があるのかなと思います。

井浦議長：

この2年経験ができなかったという中で、次の子どもたちがどのように活動を進めていくのか、その辺の苦勞などをお話ししていただけたら深まりが出るのかなということが、事前打ち合わせでも出ていたのですが。

実際に登壇して、ということになると難しい面もあると思います。生徒会の子がいきなり大人の前に出ていくわけですから。必然的に案の中に出ている方の校区を見渡すと、早川委員のところをお願いしないといけないかなという風には思っていたんですが。早川委員いかがでしょうか？

早川委員：

本校の生徒を連れて行くということでしょうか？

井浦議長：

そうですね。事業の内容も早川委員は理解されているので、もし生徒会ということになれば、古賀北中学校から来ていただければと思います。

早川委員：

はい。もしそういうことになれば、本校だろうとは思っていました。うちの生徒会活動は、私の考えもあって原点に戻り、子どもたち同士のつながりを日常からということで、この2年テーマを「日常」「つながり」として取り組んでいます。

地域とのつながりも大切なんですけれども、小さな社会つまり学校の中でのつながりを意識して、挨拶であるとか自分たちでラジオ放送的な話を給食の時に週に一回企画してくれたり、学校の中ではいろいろやっているんですが、それが社会とどうつながっていくのか学校の中ではやっているが、社会とは断絶しているのです。どのような位置づけで生徒会が参加するのかということが分かれば、参加する意義は大いにあるのかなと思います。

井浦議長：

はい。ありがとうございます。ほかの委員の方いかがでしょうか？橋爪委員いかがでしょうか？

橋爪委員：

学校の実情とかはわからないので、無責任なことは言えないなと思いながら聞いていました。子どもの実情や素直な思いを語ってもらうと、その場では深く考えられるのではないかなと思うが、子どもたちに話す必然性がなかったらそれは困った話だと思う。そこをどうやるのが難しいので、工夫しないといけないかなと思います。参加させるべきかどうかについては、言及できないかなと思います。

花見小学校の30周年記念事業は、子どもたちとビオトープの改善をしてたんじゃないかなと思うんですが、その話は興味があるのですごくためになる話が聴けるのではないかと思ったので、花見小学校のPTCAか校長先生に出させていただくのは有かなと思います。

個人的には、子どもたちの率直な意見を聞いてみたいという思いはあります。以上です。

井浦議長：

ありがとうございます。ほかの委員の方がいかがでしょうか？秋山委員、いかがでしょうか？

秋山委員：

はい。登壇者の候補にあがっているつながりひろばですが、ほかの候補団体に比べて、行政からの委託を受けたセンター運営ということで、普段から発信力の強い団体なので、今回の笑顔のつどいでは、なかなかお話が聴けないところを優先したほうが良いと感じました。

つながりひろばはフロア参加者として、交流の際に登壇者の方の意見を市民活動支援センターとしてどのように受け止めたかなど発言していただければ、流れとしてもつかみやすいのかなと感じました。以上です。

井浦議長：

はい。ありがとうございます。國友委員いかがでしょうか？

國友委員：

ちょっとお伺いしたかったのが、花見小学校の30周年記念事業は、北中の生徒さんですか？それとも高校生？広報に乗っていた写真を見ると、小学生じゃないお兄さん・お姉さんが写っていましたが。

早川委員：

はい。北中にも募集が来て、10名くらい花見小の卒業生が参加をしたのと、高校生も数名来ておりました。

國友委員：

花見小の子どもたちが来て、少し話してくれればなと思ってお聞きしました。ありがとうございました。以上です。

井浦議長：

どうでしょうか？つながり広場にフロアからの参加をお願いするということになれば、登壇者は3名なのか4名なのか。

区長・校区コミュニティの松本氏は登壇ということによろしいですか？

委員一同：はい

井浦議長：

坂崎氏に登壇をお願いできればというところもよろしいでしょうか？

委員一同：はい

井浦議長：

生徒会・花見小というところですね。フロアで生徒会が大人の中でぽつんと座っておくというのは厳しいかと。参加となれば登壇者のほうにする、あるいは、花見小も含めて4名登壇していただいて、生徒会に関しては時間調整を行うということも可能かとは思いますが。

早川委員：挙手

井浦議長：

早川委員どうぞ。

早川委員：

議長に仰っていただいたような形で、生徒会代表と私が登壇し子どもたちの話を聞いてみたいということで話をするのは意義があるのかなという気がしました。ただ、社会教育を活性化させるとか、コロナ禍のなかで社会教育がどう進んでいくのかという話は中学生はできないと思います。将来こんな町であってほしいとか、そのために今自分たちは仲間を大切にすることに取り組んでいるとか、そういった話は十分できるかと思います。以上です。

井浦議長：

はい。ありがとうございます。今までのことをまとめますと、生徒会については発言の内容を工夫し、時間配分の調整もしながら登壇していただく。松本氏・坂崎氏・花見小の30周年記念事業、これについては花見小のPTCAの役員の方に出ていただけるようであれば、社会教育の視点からの発言をいただけるかなと思います。いかがでしょうか？

早川委員：挙手

井浦議長：

早川委員どうぞ。

早川委員：

花見小については、実質歴代のPTCAの役員さんが中心で運営されたと聞いています。以上です。

井浦議長：

歴代の PTCA 役員さんということですね。では、校長先生に相談しながら、PTCA に登壇を依頼するということになりますね。そうなってくると、他校の PTCA 役員の方も参加者として増えてくる可能性はあるかと思います。皆さんいかがでしょう。このような登壇計画でよろしいでしょうか？

委員一同：はい

井浦議長：

ありがとうございます。リモートで難しい場面もありますけれども、登壇者は 4 名。時間調整については改めて行いたいと思います。それでは、次に登壇者からの発言の中身であるお題についてです。別紙 2 をご覧ください。このようなことを登壇者に発言していただくと考えております。皆さんのご意見をお聞かせください。

國友委員：挙手

井浦議長：

國友委員お願いします。

國友委員：

中学生は別ですが、登壇される方はお話し慣れしてある方と思うので、このペーパーを渡せば大体どのようなことを話せばよいのかわかられると思います。以上です。

井浦議長：

ありがとうございます。お題の例として具体的に記載しておりますので、話の準備をしていただくということよろしいでしょうか？

委員一同：はい

井浦議長：

ありがとうございます。では、どのようにして登壇依頼をしていくかということについてです。登壇者のお知り合いの方など、自分はこの方であれば対応できるよという方がおられれば、お知らせいただきたいと思います。つどいの趣旨も含めて登壇の協力をお願いしていただければと思います。それでは、松本氏に登壇依頼をしていただける方がいらっしゃいましたらお願いします。

國友委員：

角森副議長がよろしいかと思ます。

井浦議長：

角森福議長、ご推薦ですがいかがですか？

角森副議長：

丸井委員がいいと思ます。

國友委員：

坂崎氏はよく存じ上げていますので、私に対応します。

井浦議長：

國友委員が坂崎氏、松本氏は角森副議長と丸井委員でよろしいですか？

角森副議長・丸井委員：

はい。

井浦議長：

花見小はいかがでしょう？

早川委員：挙手

井浦議長：

早川委員にお願いしてよろしいですか？

早川委員：

はい。花見小の校長にはお知らせをしておりましたので。

井浦議長：

よろしくお願ひします。つながり広場はいかがでしょう？

角森副議長：

秋山委員が良いと思ます。

井浦議長：

秋山委員いかがでしょうか？

秋山委員：

はい。

井浦議長：

私もサポートはしたいと思います。お声掛けいただければ、一緒に動くことができますので、どうぞ声をかけてください。

生徒会は古賀北中学校ということですので、私のほうで早川委員に相談に行きたいと思っています。内容についても、一緒に詰めていきましょう。

それでは、本日の予定しておりました事項についてほぼ決定することができました。なかなかリモートで難しいところもありましたが、皆様からご意見をいただきながら決めることができました。ありがとうございます。

角森副議長：挙手

井浦議長：

角森副議長どうぞ。

角森副議長：

大事な進行役について、推薦したい委員がいるのですが。

井浦議長：

はい。ここまで、パネルディスカッションの内容についてですので、パネルディスカッションの進行を行っていただく方、それと、つどい全体の進行をしていただく方 2 名を決めたいと思います。

角森副議長：挙手

井浦議長：

角森副議長どうぞ。

角森副議長：

推薦です。全体の進行は國友委員、パネルディスカッションの進行は橋爪委員を推薦します。

井浦議長：

お二人推薦をいただきました。全体を國友委員、パネルディスカッションの進行を橋爪委員ということですが、そのほかありますか？

國友委員：挙手

井浦議長：

國友委員どうぞ。

國友委員：

私は過去にもやっていますので、今年はフレッシュな方にやっていただいたほうがよろしいのではないかと思います。パネルディスカッションの進行は橋爪委員、全体は秋山委員がフレッシュでいいのかなと考えます。

井浦議長：

新たに秋山委員の推薦です。

秋山委員：挙手

井浦議長：

秋山委員どうぞ。

秋山委員：

ご指名をいただいたんですけれども、全体の進行というとどういった内容なのでしょう
か？

國友委員：

以前の資料がありますよ。

角森副議長：

國友委員が以前全体進行をされた資料をくれると仰っていたので、確かに、世代交代だと思
います。秋山委員ならできます。私も推薦者を橋爪委員と秋山委員に変更します。

秋山委員・橋爪委員：

頑張ります。

井浦議長：

では全体進行を秋山委員、パネルディスカッションの進行を橋爪委員お願いします。
難しい面もあるかとは思いますが、みんなで協力しますのでどうぞよろしくお願いいたします。

以上で協議は終了です。どんどん内容が固まってきました。委員みんなで協力して取り組んでいきたいと思います。

では、委員の皆様からご報告事項はございませんでしょうか？よろしいでしょうか？では、事務局からお願いします。

事務局：

はい。(福岡ブロック社会教育委員研修会、九州ブロック社会教育研究大会長崎大会、社教情報について報告)

井浦議長：

ありがとうございました。冒頭のあいさつでも述べましたが、福岡ブロックへの報告については、次回の会議の際に皆様にご確認いただければと思っています。では、次回会議の日程を10月5日からの週で決めたいと思います。都合の悪い日程があれば挙手をお願いします。

10月5日は今のところ全員参加できるようですのでこの日に決定したいと思います。緊急事態宣言が10月5日までには解除されていることを願っております。また、事務局のほうから、今回の会議を受けたタイムスケジュールの変更案を皆様にご周知したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、角森副議長から終りの言葉をお願いします。

角森副議長：

きっと良い笑顔のつどいになると思います。皆さんお疲れさまでした。